

シネマズライフ

2011年10月7日発行 第1号

貴樹諒音(たかぎりおん)

映画の風景 日本の風景 ★ 神戸メリケンパーク ★



メリケンパークオリエンタルホテル
に停泊する船

港の町である神戸のメリケンパークにたまたまそんな映画を思い出す。タイタニックほどの大きさではないものの、港を出入りする船は、「いったいどこに行くのか?」「どんな人達が集まっているのか?」っと想像させられる。映画の主人公達のよう、激しい愛を交わしている二人がいるのだからか? 海は、すべてを見ている…。恋人達の姿は見えなかつたが感じさせてくれる。港はそういう場所なのだ。

昔、『タイタニック』という映画があつた。労働階級の青年・ジャックが賭けに勝ち、豪華客船・タイタニックに乗船。一方、貴族の女性・ローズは貴族とはいえ資産もなくその為不本意な結婚を迫られていた。そして二人は人生を賭ける恋をする。偶然、タイタニックに乗った二人は恋をし、その恋は激しい愛に変わり、愛は二人の運命をも変える。

『タイタニック』1997年 アメリカ映画
監督・脚本・制作 ジェームズ・キャメロン 主演・レオナルド・ディカプリオ ケイト・ウィンスレット

恋愛映画・アクション映画・ノンフィクション…映画黎明期から人々が楽しんだテーマをすべて網羅し、映画百年を飾るにふさわしい作品。

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します!



『サマータイムマシン・ブルース』

日本映画専門チャンネル
2005年 日本 監督:本広克行 原作・脚本:上田誠(ローロッパ企画)
出演:瑛太 上野樹里 真木よう子

10月8日(土) 27:30→[10月9日(日) 03:30]
10月15日(土) 10:00 10月26日(水) 17:00
10月30日(日) 08:00

夏休みの暑い夏。大学の《SF研究会》のメンバー達が、《カメラクラブ》の伊藤の要請でユニフォームに着替え、野球に汗を流していました。さて練習後、近くの風呂屋で一息ついたメンバー達でしたが、思わぬ出来事で部室のクーラーのリモコンが使用不能に。おかげで彼らは、暑い夏を蒸し風呂のような部室で過ごすハメに。翌日、限界に達していた部員の目の前に突然! タイムマシンが出現。そこで、彼らは壊れる前のクーラーのリモコンをタイムマシンで過去に取りに行く事を思い立ちます…。

《SF研究会》でありながらまったくSFなるものをわかっていない呑気なメンバー達の前に突然タイムマシンが現れたらさて、どうする?ってお話です。

出演は今や大スターの瑛太・上野樹里・真木よう子。初々しい三人ですが、ちらっと垣間見えるスターのオーラを感じてください。

『舞妓Haaaaan!!!』

日本映画専門チャンネル
2007年 日本 監督:水田伸生 脚本:宮藤官九郎
出演:阿部サダヲ 堤真一 柴咲コウ 小出早織

10月11日(火) 21:00 10月12日(水) 14:00
10月28日(金) 23:10 10月31日(月) 21:00

修学旅行先の京都で迷子になり、舞妓に助けられて、無類の舞妓ファンになってしまった鬼塚公彦。しかし、東京在住の公彦はまだ《舞妓遊び》はした事はありませんでした。ところがある日、人事異動で京都に転勤する事に。大喜びの公彦ですが、一人悲しみにくれるのが公彦の恋人の駒子。ウキウキ気分の公彦は、泣いて追いつがる駒子を振り切って京都に向かいます。しかし、京都に住んだからといってすぐに《舞妓遊び》ができるワケではありません。頼みの綱の社長には、「実績を上げてからにしろ」と言われ、公彦は実績作りに奔走します…。

阿部サダヲが柴咲コウを
振っただけでもすごい映画!!

何事も、目的に向かって一直線の鬼塚は、生きる上で今一番必要なものじゃないかと思ったりもします。《舞妓遊び》をやりたい為に、仕事一直線の単細胞な鬼塚を見て社長の言う名言をお見逃しなく。

☆【最近のこれはお見事!】は、見事な映画の題名の紹介しませんが、反して、【最近のこれはまずいぞ!】は、これは、まずいぞ!と思う映画の題名を紹介しします。

☆ 今月から、ネットミニコミ誌を発行する事になりました。主に映画の紹介とコラムです。よろしくお聞かせください。感想・お叱りお聞かせください。

よろしくお願ひします!! 貴樹諒音

【最近のこれはまずいぞー！】

『UNDERWATER LOVE』おんなの河童

日本×ドイツの合作ピンクミュージカル映画とか、なかなか意欲的な映画のようだが、単に「河童」をおんなに限定しているところが気に入らない。

出演 野野路陽 熊田聖也 りょう
ROLLY 國科野 飯塚剛路 納木時生

「さや侍」

監督 原水入志

妻の死のショックから、放浪の旅に出た野見勘十郎。彼の腰には刀のないさやだけだ。シヨックから立ち直れないでいる男で、娘からも武士としての《自害》求められるような男だ。妻を亡くした彼にとつて刀をさやに納める《武士》はあまりにも重い生き方だったのだろうか。

やがて、彼には脱藩の罪が問われ、ついに捕まり【芸】をして笑われない若殿を笑わせられないと切腹せよという命が下る。しかし、男には【芸】はない、おかげで能見は《武士》として生きる為に【芸】をしないと涙ぐましい努力が始まる…。

やがて、彼が戦い終

わって決心した事。それは《武士》として切腹し、妻と寄り添う事。天国の妻に《人間として武士として戦った》と言える確信ができたのだろうか。



そんな男の娘への伝言は残酷なようだが、実は《愛》に溢れている。娘への愛、妻への愛、これから生きていくであろう人々への愛。それは、輪廻転生され永遠に続く…。

能見は、娘に“死”をもつて“生きる”事を教えたのだ。それは、武士としての一番の勇気なのではないだろうか？

“死”をもつて“生きる”事を教える、それゆえにこんな“愛”に満ちた映画は見た事はない。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema

コラム 『都心の指名と 倉庫』

私の住んでいる大阪では、現在都市の大編成が続いている。デパートの敷地内にあったメインストリートを閉鎖までしての暴挙…いや建て替えて迷惑この上ないが、時代が変わっていくと共に都会も変わっていくというのはいかたの事か…。一人の人間の憂いなど新しい都会には関係ない。古びているが、昭和の時代の風情を残していたデパートは取り壊され建て替えられ、次々と関東のデパートが進出して、ますます賑やかになっていく。

今や地方の時代と言われているが、その地方であるべき大阪が地方で無くなって来ている。特に大阪は《副首都》にと言う人も多く、東京で震災などが起ると、政治・経済などがすべてマヒし、東北震災でさえ日

本の経済が停滞したのを見ると、大阪《副首都》は日本の為にはしかたがない事なのだろう。

しかし、そこには《副首都》に住む人間達の「心」は住んでいるのだろうか？確かに今は新しい都会は新しいビルは美しくまるでデイズニランドのように物珍しい店が立ち並ぶのだが、やがてそこは人々にはなんでもない都会になりデイズニランドも消え失せ、ただの《都会》の風景でしかない。

そこには、ただの寂しい《都会》しか存在していないと思うのだ。



☆ 八月の初旬。この暑いのに先日、北九州に旅行に行ってきました。かねてから行きたかった柳川下りと吉野ケ里遺跡と呼子の七ツ釜。去年は、平城遷都一三〇〇年祭にこられた暑い盛りは八月に行つて、もう懲りたはずなのに何故か今年も同じ時期に行く事になり、なんとも因果な話です。

吉野ケ里遺跡は『魏志倭人伝』から、『耶馬台国』ではないかと噂されている場所。なるほど、日本の成り立ちを見るにはいい所だなうと思いました。

大陸からのもたらされた技術をいかにして日本の文化としていったか…。そんな事を考えさせられる旅でした。



【最近のこれはお見事！】『探偵はBARにいる』

東直己の小説『スキノ探偵シリーズ』の第二作を映画化。この題名は二作目のモノを借用。格調高い雰囲気の名がいい。とりあえずBARに行けば解決しますって映画。

